

レファレンス だより

2014年2月号
No. 135

福岡市総合図書館
図書サービス課 相談係
☎092-852-0632



図書館では、情報を求める利用者に対して、図書館の資料と機能を活用して調査のお手伝いをする「レファレンス・サービス」を提供しています。「レファレンスだより」は、実際に寄せられた質問について、総合図書館が回答した事例の一部を紹介する情報紙です。（法律相談や物品鑑定などお答えできない質問もあります。）

■レファレンス受付件数（2013年11月分）

| 参考 | 人文 | 社会 | 自然 | 郷土 |
|-----|-------|-----|-------|-------|
| 140 | 1,870 | 303 | 381 | 430 |
| 国際 | 国連 | こども | ホピュラー | 合計 |
| 559 | 49 | 783 | 1,372 | 5,887 |

（開館日 26日 一日平均 226件）

※「2階C1」などと表記しているものは総合図書館の棚番号です。また、「813.1」などと表記しているものは分類番号で、数字の左にRが付いている資料、郷土資料は貸出ができませんので、館内でご利用ください。本によっては、分館も含めて複数冊所蔵しているものがあります。



今月のレファレンス徹底解説！

Q：昔話「白うさぎのおんがえし」の話は、どの資料に掲載されているのか。

■「白うさぎのおんがえし」を確認する

『白うさぎのおんがえし』（たかしよいち／ぶん 高田 勲／え 佼成出版社 1989年）閉架書庫（絵本）鎌倉時代、宋に渡った大応国師が帰朝の際、狼に追われるうさぎを助け、連れ帰ることとなった。玄海灘で船が難破しそうになったとき、このうさぎが海に飛び込み道をひらいて船を導いたおかげで、無事姪浜に帰り着くことができた。そして、そのうさぎは金の竜に姿を変え空にむかって昇っていったという話。

■大応国師を調べる

『福岡県百科事典 下』（福岡県百科事典刊行本部／編集 西日本新聞社 1982年）2階 C12 R291.91/7「大応国師と白ウサギ」という項目に、「1259年（正元元）宋の国に渡り、帰国して1270年（文永7）興徳寺（福岡市西区姪浜）を開いた大応国師にまつわる白ウサギの報恩伝説。」とある。

■福岡の昔話を調べる

「玄海灘を駆ける兎」※1、「大応国師とウサギ」※2、「大応国師と白うさぎ」※3、「海を走るウサギ」※4、「白うさぎと大応国師」※5 といった題で以下の資料に掲載されている。

※1『筑前の傳説』（佐々木 滋寛／編 九州土俗研究会 1936年）閉架書庫

※2『筑前の昔話し』（大村 紫雲／編 九州日报社 1982年）2階郷土 K10 K388/200/㊦

※3『ふるさとの伝説 いつまでも伝えたい31話』（安川 浄生／著 あらき書店 1987年）閉架書庫

※4『福岡のむかし話』（福岡県民話研究会／編 日本標準 1980年）閉架書庫

※5『福岡市に伝わるむかし話』（鶴陽会福岡支会／編 鶴陽会福岡支会 2002年）1階子参 38/㊦㊦㊦㊦㊦
※4、※5は子ども向け。※5には「平成13年の春、地下鉄姪浜駅の南側の広場には、福岡市西区のシンボルとして、大応国師と白うさぎのお話をテーマに、大きな波の上に白うさぎと金色の竜が飛んでいるモニュメントが建てられました」という説明がある。

■説話を調べる

→（写真：金色の竜の絵は裏側）

『「説話」大百科事典 大語園 第7巻』

（巖谷小波／編 名著普及会 1984年：1935年刊の復刻）2階 D7 388.08/㊦
「波上の白兎」という題で、八大龍王の話として掲載されており、出典は「海の傳説」とある。

■「海の傳説」（大語園が1935年刊なのでそれ以前の出版）を調べる。

『海の伝説と情話』（朝日新聞社／編 朝日新聞社 1923年）

国立国会図書館デジタル化資料

「玄海の波を駆ける白兎」（輝葉紫／著）の掲載がある。



この資料は国会図書館限定での公開でしたが、福岡市総合図書館でも閲覧・複写できるようになりました。詳しくは4面をご覧ください。



その他にもこんな質問がありました

Q：最後の敵討をしたとして知られる臼井六郎^{うすいろうろう}という人物について知りたい。

■歴史事典

『明治時代史大辞典 1』（宮地 正人・佐藤 能丸/編 吉川弘文館 2011年）2階C10 R210.6/メ
明治6年（1873）に「復讐禁止令」が出されてから7年後の13年12月（1880）、東京上等裁判所判事補であった一瀬直久を父の仇として殺害した人物。安政5年（1858）、福岡の秋月藩重臣であった臼井^{うすいわたのり}巨理の長男として生まれた。明治元年（1868）、藩内の対立する一派に父母を殺される。11歳だった六郎は別室にいて、難を逃れた。仇討後、六郎は自首し、終身刑となったが、模範囚として服役10年で出所した。

『明治ニュース事典 2 明治11年-明治15年』

（明治ニュース事典編纂委員会/編集製作 毎日コミュニケーションズ 1983年）2階C10 R210.6/メ
50音順一般索引「仇討（あだうち）」、もしくは年次別歴史索引「社会・文化・教育・生活」から、一連のニュース記事を調べることができる。「臼井六郎、父の遺恨をはらす」ほか、六郎の供述書も載っている。

■小説

『敵討』（吉村昭/著 新潮社 2001年）1階ポ57 913.6/㍿
所収の「最後の敵討」の主人公として描かれている。

■郷土資料

『物語秋月史 幕末維新編』（三浦 末雄/著 亀陽文庫 1981年）2階郷土K2 K229.1/291/㍿
上記資料『敵討』の参考文献。「明治の仇討物語」で、事件について詳しく書かれている。

Q：風呂敷は「包む」ものなのに、どうして名前に「敷」がつくのか。

■辞典

『日本民俗大辞典 下 た〜わ・索引』（福田 アジオ/[ほか]編 吉川弘文館 2000年）2階D7 R380.33/-
「ふろしき・風呂敷」の項目を見ると、「物を包む正方形の布地。平安時代には“平包み”と呼ばれていた。風呂敷の語は江戸時代初めには用いられたが、入浴の普及とともに広まったと見られ、“風呂場に敷いて足をぬぐう布の意”からとも、“風呂場に敷いて衣服を着脱したり、脱いだ衣服を包んだりしたため”ともいう」とある。

※その他の辞典の「風呂敷」の項目を確認すると、

『日本大百科全書 20』には“平包が風呂敷と名称を変えるのは、銭湯ができたことに起因する。当時の入浴は、現代のように全裸では入らず、男も女も風呂褌（ふんどし）をして入ったが、脱衣所で平包の上で身じまいをしたため”とある。また、『国史大辞典 12』には“手拭い、その他入浴に必要な品を包んで行き、入浴する時は脱衣などを包んでおき、帰りは濡れたものを包んで持ち帰った”とあり、辞典に記載されている内容も様々である。

■一般書

『和の暮らし大事典』（新谷 尚紀/監修 学研 2004年）1階ポ66 382.1/㍿

“風呂敷き”の言葉の由来については諸説あるとしようえて、

- ① 蒸し風呂のスノコ板に敷いて使った。
- ② 風呂で湯上りのときに足拭きとして使った。
- ③ 銭湯で自分の衣類を包むために使った。

の3つが紹介されている。「江戸時代に銭湯が普及してくると、他人の浴衣と区別するために自分のものを包むものとしての風呂敷きが使われました。しかし、銭湯に脱衣籠や棚が作られるようになったため、やがて風呂敷は、本来の用途とは違った使われ方をするようになりました」と書かれている。

『包み（ものと人間の文化史）20』（額田 巖/著 法政大学出版局 1977年）閉架書庫

「風呂敷の由来」として詳しく書かれている。そのうち珍しい話として、「昔は高貴な方が風呂に入る時には、身体がじかに風呂の底の木部にふれることはおそれ多いので、これを避けるために四角な布を底に敷いて入浴された。そのためこの四角い布のことを風呂敷とよぶようになった」と紹介がある。



Q：家庭でできる椿油の作り方を詳しく知りたい。

■椿について知る

『日本のツバキ：ふるさとと品種』（桐野 秋豊／著 主婦の友社 1976年）閉架書庫
各地方のツバキ栽培や品種について詳しい。「ツバキ油のできるまで」として、採取した種子を乾燥させ、蒸して搾油する手順が写真付きで紹介されているが、工場での大がかりな作業の様子である。

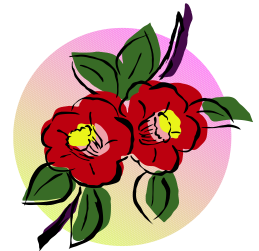
■家庭での作り方

『油の絵本（つくってあそぼう）15』（すずき おさむ／へん みやざき ひでと／え
農山漁村文化協会 2006年）1階子6 57/7

油の役割や性質のほか、身近な原料からとれる油についてもわかる児童書。市販のジャッキを使った自家製搾油器の作り方と、ツバキの種子を炒って油をしぼる手順が、イラストや写真とともに掲載されている。

『農家が教える手づくり油読本：栽培・搾油から燃料まで』
（農文協／編 農山漁村文化協会 2012年）1階ポ76 617.9/1

油がとれる各種の植物について、栽培から搾油、利用法までを紹介する。家庭でのツバキの搾油については、上掲の『油の絵本』からの抜粋となっている。



■地域の文化

『日本の食生活全集 35 聞き書 山口の食事』（農山漁村文化協会 1989年）2階D19 383.8/ニ
大正の終わりから昭和の初めころの各都道府県の食生活について、聞き書きを中心にまとめたシリーズ。長門内陸の伝承として、臼で砕いて蒸した椿の実を棕櫚の袋に入れてしぼる方法が掲載されている。

『日本の食生活全集 39 聞き書 高知の食事』（農山漁村文化協会 1986年）2階D19 383.8/ニ
足摺海岸に伝わる椿油のしぼり方が掲載されている。臼で砕いて蒸した実を棕櫚の毛で包んでしぼることは上記の山口と共通だが、しぼり具の仕組みはそれぞれ異なる。

Q：ケネディ新駐日米国大使が日本に着任するにあたり、『奥の細道』の一節を引用して、「早く日本に行きたい」と言ったと新聞記事で読んだ。その一節（英文）が書かれた本は所蔵しているか？

■新聞

毎日新聞 平成 25 年 11 月 14 日付 夕刊 8 面

読売新聞 平成 25 年 11 月 14 日付 朝刊 7 面

日本経済新聞 平成 25 年 11 月 13 日付 夕刊 1 面

ケネディ新大使の発言について記事あり。例えば毎日新聞には、『12日にワシントンの駐米日本大使館公邸であった壮行レセプションにおいて、キャロライン・ケネディ新大使は、松尾芭蕉の「奥の細道」の一節の「道祖神の招きにあひて取るもの手につかず（旅に出たくて何も手につかない）」を英訳で引いたうえで、「仕事をするのが待ちきれない」と、重責を担って赴く国への思いを披露した。』とある。朝日新聞、西日本新聞、The Newyork Times、Japan Times にはレセプションの記事はあるものの、「奥の細道」については言及はない。

■一般書

当館には『奥の細道』の英訳本を3冊所蔵している。

『おくのほそ道』（松尾 芭蕉／著 ドナルド・キーン／訳 講談社インターナショナル 1996年）
2階国際 A20 F100ENG/915.5/MA

『奥の細道 A haiku journey』（松尾 芭蕉／著 Dorothy Britton／訳 講談社インターナショナル 1995年）
閉架書庫

『The narrow road to the deep north: and other travel sketches』
（Matsuo Basho／著 Nobuyuki Yuasa／訳 Penguin Harmondworth 1966年）2階国際 A20 F804ENG/911.32/MA

※ 棚番号は総合図書館のもので、本によっては、分館も含めて複数冊所蔵しているものがあります。



今の一冊！

『オリンピック事典：ポケット版』

(日本オリンピック・アカデミー「ポケット版オリンピック事典」編集委員会／編 楽 2008年) 2階 C13 R780.69/オ

2月6日からソチオリンピックが始まりますが、オリンピックそのものはいつから始まったのか、どんな競技があるのか、といったことを疑問に思ったことはありませんか？そんな疑問に答えてくれるのが、この『オリンピック事典』です。

この本は、第1章「オリンピックのしくみ」、第2章「オリンピックの歴史」、第3章「記憶に残るオリンピック」、第4章「オリンピックの教育」、第5章「北京大会・バンクーバー冬季大会」で構成されています。また、付録として、オリンピック憲章（根本原則）、古代・近代オリンピック年表、オリンピック大会の開催地一覧、オリンピック面白クイズなどもついています。

使ってみました！⇒“オリンピック面白クイズ”に挑戦！

・第1回オリンピック大会（アテネ）の参加国数は？

A. 12ヶ国 B. 14ヶ国 C. 22ヶ国

⇒ [答] B. 14ヶ国

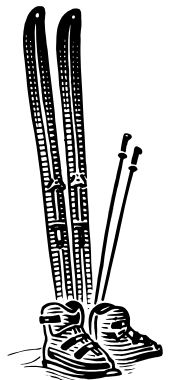
241人の選手が参加し43の種目で競技しました。A.12ヶ国は参加国の一番少なかった第3回セントルイス大会、C.22ヶ国は第2回パリ大会です。

・初めてオリンピック会場に聖火が灯されたのはいつでしょう？

A. パリ大会（1900） B. アムステルダム大会（1928） C. ベルリン大会（1936）

⇒ [答] B. アムステルダム大会

聖火リレーが行われたのはベルリン大会からですが、アムステルダム大会の会場にも聖火は灯っていました。古代でもトーチリレー競争が行われたことがあります。

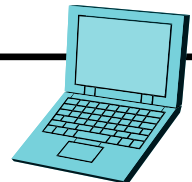


図書館活用術

～国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」～

国立国会図書館では、資料の長期保存のため資料のデジタル化を進めてきました。しかし、国会図書館内でしか閲覧できない資料も多くありました。

こうしたデジタル化資料のうち、絶版等の資料については、データの送信をあらかじめ承認された図書館で、閲覧や複写が1月21日から可能になりました。このサービスは福岡市総合図書館でも受けられます。総合図書館2階のレファレンスカウンター1で受付をしていますので、詳しくはカウンターまでお尋ねください。



2月は、各分館が特別整理期間に入ります！

福岡市の図書館では、通常の休館日に加え、1年に1度、所蔵資料の所在を確認する点検作業などを行う特別整理期間を設けています。

各分館の特別整理期間は下記のとおりです。ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。なお、総合図書館の特別整理期間は、3月11日（火）～3月19日（水）です。

2月4日（火）～2月13日（木） 東図書館・博多南図書館・南図書館・早良図書館・西部図書館

2月18日（火）～2月27日（木） 和白図書館・博多図書館・中央図書館・城南図書館・西図書館